



菊原 初子(きくはら はつこ)
地歌箏曲家

1899年大阪市生まれ。昭和54年、地歌の重要無形文化財(人間国宝)に認定。昭和60年、勲四等宝冠章を受ける。現在、社団法人当道音楽会会長、大阪音楽大学名誉教授。

思い出すままに

菊原初子

人間、百歳を過ぎますと、遠い昔のことを思い出すのもなかなか難しく思います。まだ八十代から九十過ぎまではよく昔のことなど覚えていたものでございますが、この頃はほとんど物覚えが悪くなりました。

その中でも、豊中に関してはよく覚えております。というのも、小学校も四年程しか通っておりません私が、いきなり教授として迎えられ、庄内にある大阪音楽大学へ通うようになったからでございます。それは昭和四十二、三年の頃だったと思います。今から三十三年ほど前、私が七十歳頃のことです、大変懐かしいことでございます。

その頃、天王寺から内弟子の二十歳ぐらいの男の子を連れて、梅田から阪急宝塚線で学校のある庄内まで生まれて初めて電車通勤の経験を行いました。当時はとてもんびりとしておりまして、電車の中でもとなた様も何かしら、ゆったりとした気持ちを持っていた感じでございます。



いました。

庄内駅から音大までゆっくり歩くのですが、程よい道のりで、運動などしたのではない私など、とても嬉しい気がしたものです。授業中はよく飛行機も飛んでおりまして、その音もまだ耳に残っております。帰りには、美味しいうどん屋さんがございます。いつも弟子と二人、そこでいただくのがとても楽しみでございました。願いが叶うことでしたら、今一度あのうどん屋さんへ行ってみたい思いでございます。

今の世の中、もう少し昔のようにゆったりとした気持ち、優しい気持ち、そして他人様をいたわる気持ちがあれば、毎日報道されるいやな事件も少なくなると存じます。

百一歳を過ぎた今、こうして豊中を思い出し、もう一度ゆっくりと庄内駅から音大まで歩くことができたなら幸いと思っております。

思い出すままに、とりとめのないことを述べさせていただきます。